

令和元年度 猪名川町立六瀬中学校 学校関係者評価報告

【学校教育目標】 夢と希望を抱き、挑戦する力の育成 【重点目標】 自ら気づき、考え、行動できる生徒

目指す学校像	目指す生徒像	目指す教師像	本年度の重点方策
<ul style="list-style-type: none"> 学力を伸ばす学校 居場所がある学校 命と健康を大切にする学校 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ楽しさを身につけた生徒 自他を認める生徒 自分の命を自分で守り、健康管理できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲をくすぐる教師 生徒の背景や心の状態を受けとめ、寄り添い、共に歩む教師 心身共に健康で、生徒のことを第一に考える教師 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「魅力ある授業」による学力保障 安全・安心な学校づくり 人権、同和、道徳の推進 特別支援教育の推進 ふるさとづくりの推進 ユニバーサルデザイン化の推進

A:できている(満足) B:どちらかといえばできている(やや満足) C:どちらかといえばできていない(やや不満) D:できていない

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:

領域	評価の観点	評価項目	評価基準	② 到達 度	③ 評価	改善方策	自己評 価は適 切か	改善方 策は適 切か	学校関係者評価委員の提言
1 学校運営	(1) 学校運営	①家庭や地域への情報発信	学校だよりや学年だより、ホームページなどで教育方針や教育内容など学校情報を積極的に発信している。	80.8	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信やホームページを活用して、学校教育目標や指導方針、取り組み等を保護者や地域住民に知らせ、理解と協力を求める。 地域の学校として、図書室の開放など、地域住民が気軽に学校に来れる方法を考えていく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校として、地域の方と共に花壇づくりなどの作業を定期的実施するなど、地域の方に定期的に足を向けてもらう。 図書館開放はいいことである。 本当にできているかチェックが必要。 学校に保護者や地域の人々が気軽に来れる方法は、ぜひ考えて進めて下さい。 コミュニティスクールの導入を視野に入れた学校施設の開放は大切だと思う。
		②保護者、卒業生、住民参加の教育活動(六瀬村塾)	学校の教育活動に、保護者、卒業生、地域住民が積極的に参画できるような体制ができている。また、自ら進んで参加協力を努めている。	86.5	A				
		③オープン行事の企画実施	オープンスクール、各種説明会、オープン行事を企画し、保護者や地域住民の感想意見を積極的に取り入れている。	87.5	A				
	(2) 学校組織 及び 教職員の資質向上	①校務分掌の機能	学校経営方針のもと、校務分掌が適切に配置され、「チーム学校」として組織が十分機能している。	78.6	B	<ul style="list-style-type: none"> 適材適所に人員を配置し、教職員一人一人の良さが発揮できるようにする。 自ら考える生徒を育成するために、授業改善や指導力向上の研修を実施する。 同僚性がある職場環境を整え、勤務時間の適正化に努める。 ベテラン教師が、若手教師の見本となるOJTを推進していく。 お互いが働きやすいように、職場美化に務める。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、保護者及び生徒のコミュニケーション強化。 会議の運営を効率的に行えることで時間的な余裕もでき、大変望ましい。 教職員のチーム力の強化に努め、生徒や保護者、地域とも一体な運営をリードして下さい。 改善方策にあるようにベテラン教師が教科や学年を超えて、若手の指導ができる体制が望ましいと思う。
		②会議の運営	職員会議や連絡調整委員会、学年会議、各種委員会が連携して効率的に行われている。	91.7	A				
		③教職員のチーム力	学校教育目標に沿って、教職員一人一人が前向きに一丸となって組織的に活動している。	85.7	A				
		④関係者とのコミュニケーション	様々な場面を活かして、地域住民、PTAと教職員が積極的なコミュニケーションを図り、相互理解と相互信頼の構築に努めている。	85.4	A				
		⑤研究研修の充実	教育全体の新たな課題や本校重点課題に即して、研修活動が活発に行われている。	89.6	A				
		⑥教職員のマナー、倫理観	トイレや机上整理など職場の環境美化に努めるとともに、職場での声の大きさ、独り言等、社会人としてのマナーや教育公務員としての高い倫理観が職場にみながっている。	82.1	A				
		⑦勤務時間の適正化	学校行事の見直し、ノー部活デー、ノー会議デー、定時退勤日の実施により、生徒と向き合う時間を確保し、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組んでいる。	81.3	A				
(3) 特色ある学校づくり	①夢を描く力の育成	子どもたちに「主体的に夢を描く力」を身に付けさせるように努めている。	84.6	A	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと六瀬を愛する生徒を育成するために、今年度「六瀬を知る」で学習をしたが、来年度も引き続きふるさとづくりに取り組んでいく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材活用、地域の教材発掘などのCO的人材が必要ではないか。 もっともっと深く掘り下げて欲しい。 	
	②ふるさとづくりの推進(地域の文化、人材の活用)	地域ぐるみの教育をめざし、地域の人材を積極的に活用したり地域の教材化を図ったり地域との連携を図っている。	81.3	A					
	③ユニバーサル・デザイン化の推進	学校生活のユニバーサル・デザイン化を進め、すべての生徒にわかりやすい指導に努めている。	83.3	A					
(4) 一貫教育	①幼小中の連携体制	幼稚園、小学校との連携を推進するための組織が機能し、相互交流が活発に行われている。	79.2	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事だけでなく、授業を通じて幼稚園との交流を続けていく。 小学校との授業交流を深めて、基礎学力の定着に努める。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様、積極的に進めていきたい。 小中、幼中の子供たちの交流の場があるとよい。 どう連携しているのか外部に見えない。 学校園の再編を見越して、三校一園のあり方も検討の必要あり。 	
	②学びの連続性を踏まえた指導	幼稚園、小学校と中学校との学びの連続性を深めるために積極的に指導の交流を進めている。(出前授業、合同研修会の開催など)	75.0	B					
(5) 学校の情報化	①教員のICT活用能力	一人一人の教師がICTを活用した授業を積極的に進めている。	81.3	A	<ul style="list-style-type: none"> 猪名川町のセキュリティポリシーを徹底し、遵守する。 生徒が授業で活用する機会増やすとともに、教職員活用の応力の向上を図る。 	◎	◎		
	②生徒のICT活用能力の向上	オンライン学習システムを導入し、学力向上を図るとともに、生徒自身のICT活用能力の向上にもつなげる。	70.8	B					
	③校務支援システムの活用	校務用パソコンを活用し、情報資産の共有化や業務の効率化を図り、学校事務の改善を推進している。	86.5	A					
	④個人情報の保護管理	電子データ、紙媒体、口頭を問わず、猪名川町セキュリティポリシーを遵守している。	94.6	A					

2 確かな学力	(6) 信頼される学校づくり	①保護者や地域からの信頼	保護者が安心して子どもを通わせ、子どもの成長に満足している。地域を大切にした取組が進められていると保護者や地域住民が感じられる教育を推進している。	79.2	B	・「スチューデントファースト」を合言葉に、生徒が行きたい学校づくりを推進する。	○	◎	・具体的な姿、目標がある方がよい。 ・安心して学校生活を送っている生徒が多いことは素晴らしい。	
	(1) 教育課程	①教育計画	年間計画が適正に実施されている。また、授業日数・授業時数の配当及び時間割・校時表が適切かつ効果的に配当され、実施されている。	89.6	A	・行事等に係る時数を見直し、授業時数の確保する。	◎	◎		
	(2) わかる授業づくり	①学修者が主体の指導内容・指導方法の工夫改善	学習する者が主体的、協働的に学ぶ指導方法の工夫改善に取り組むとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図っている。	81.8	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の好奇心ややる気をくすぐる授業をすることによって、生徒の内発的な動機付けを高めて、自主的な家庭学習ができるようにする。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業が展開できるように研修を深める。 ・授業に関する生徒アンケートを実施し、授業改善につなげる。(PDCAサイクルの確立) ・統一した授業の進め方を取り入れ、学力向上に努める。 ・六瀬村塾を継続していく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習については小学校での課題である。 ・家庭学習の目的、方法をはっきりさせること。場合によってはチェックによる見える化も必要かもしれない。 ・家庭での自主的な学習意欲につなぐ授業を考えて下さい。 ・方針、方策は立派。でも一人一人の生徒にどれだけ浸透しているのか検証が必要である。 ・多くの生徒が意欲的に取り組んでいることは、UDの成果だと思ふ。 ・家庭学習について、保護者の理解と協力を一層高める方法に工夫が必要。 	
			②言語活動の充実	学習活動の中に言語活動を大切に位置づけている。	86.4					A
			③体験学習の推進	体験的な学習活動をできるだけ取り入れ実感をとまなう学習に努めている。	84.1					A
			④指導と評価の一体化	指導と評価の一体化を常に意識した授業を展開し、できていない生徒への働きかけを粘り強く行う。	84.1					A
			⑤家庭での主体的な学習活動の推進	家庭での学習活動を定着させるために、放課後学習などの取組や副教材の工夫などを積極的に展開する。	81.8					A
	(3) 特別支援教育	①特別支援教育推進体制の強化	特別支援教育についての全教職員の共通理解のもとサポート体制が整備されている。	83.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズに応えられるように、研修を積み、一人一人の力量を高めるとともに、学校全体で支援していく体制を強化する。 	◎	◎		
			②特別支援学級の充実	特別支援学級在籍生徒への理解が深まり、適切な指導に向けた実践研究が進んでいる。	75.0					B
			③授業で困り感のある生徒への対応	支援の必要な生徒に対して、スクールアシスタントを配置するとともに、巡回教育相談やSSW、SCを活用し、より効果的な手立てを検討している。	81.3					A
(1) 生徒指導	①生徒指導方針の共有と指導体制	生徒指導方針を明確にし、全教職員の共通理解のもと問題行動の未然防止に努め、問題行動に迅速かつ一貫した指導に当たっている。	82.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がスマホやケータイによって、被害者や加害者にならないように、生徒だけでなく、教師や保護者への研修会や啓発を行う。 ・SCやSSW、関係機関との連携を密にして、不登校生への効果的な指導に努める。 ・いじめはどこでもあるという意識で、敏感なアンテナで生徒との関係づくりをしていく。また、「いじめを許さない学校」を年間を通じて発信していく。 ・カウセリングマインド研修を行い、相談しやすい雰囲気づくりをしていく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのコミュニケーション機会を増やして下さい。 ・学校内だけではダメ。外での生活に視点を置いてチェックする。(自己の目で) ・従来と比較してよくなっているのか。チェックが必要。自己満足ではダメ。 ・スマホ、ケータイの買い与え方、使い方について、保護者への啓発が必要。 		
		②教員の生徒指導力(集団づくり)	規律ある学習や学校生活を指導するとともに、好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくりができていく。	76.9					B	
		③教育相談の推進	全教職員が生徒の内面理解に努めるとともに、面談週間やスクールカウンセラー等が効果的に機能している。個別支援に努め、不登校や虐待等の問題にもきめ細やかに対応している。	81.3					A	
		④いじめを許さない指導の充実	いじめを許さない校風のもと、いじめの早期発見・早期解決に向けたアンケートや教育相談の充実を図り、いじめ対応チームを軸にした指導体制の充実を図っている。	85.4					A	
		⑤情報リテラシーの向上	スマホ、ケータイなどのルール、マナーづくりを推進し、ネット依存、ネットいじめ、課金問題、個人情報保護問題などに充分対応できる子どもたちを養成している。保護者の啓発と協力を得て、親子ルールをつくっている。	87.5					A	
(2) 道徳教育	①道徳教育	全体計画が作成され、全教育活動の中で道徳性を育成するよう取り組むとともに、道徳の時間の指導を工夫している。教科道徳に向けての準備も進められている。	85.4	A	・ローテーション授業を取り入れ、全教職員で道徳性の育成に努める。	◎	◎	・学校に関わるいろんな先生による授業がよいかも。 ・日常の社会、生活の場では、今ひとつ。		
(3) 人権教育	①人権教育	人権尊重の精神が隔々まで行き届き計画的に育成されている。新たな人権課題にも対応した取組も進められている。	75.0	B	・学校生活全般を通して、一人一人の個性や感受性を大切にしていく。	◎	◎			
(4) 特別活動	①特別活動	行事の内容が充実するとともに、望ましい集団活動を通じて自主的・計画的に活動の活性化が図られている。	79.5	B	・生徒の意見が反映された自主的な活動ができるようにする。	◎	◎			

2
確かな学力

3
豊かな心

4 健康・安全	(1) 危機管理体制の整備	①危機対応マニュアルの確立	災害や事故発生時の危機対応マニュアルが設置され、全教職員が地域と協力して速やかに実行できる。	76.9	B	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の内容を見直していく。 ・常日頃から「自分の命は自分で守る」という意識を持たせるようにしていく。 	◎	◎	
		②防犯教育、防災教育の充実	生徒の防犯、防災意識を高め、緊急時に生徒が迅速かつ的確に行動できるよう指導している。	82.7	A				
		③教職員の訓練	平常より防災研修や防犯教室等の訓練を通じて、教職員一人一人の危機管理の実践力を高めている。	82.1	A				
	(2) 健康・安全	①健康・安全指導	健康で安全な生活を送るための保健衛生指導が徹底できている。また、災害発生時にもリスクを最小限にとどめる配慮や指導が行われている。自転車通学の安全が十分に図られている。	79.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の交通安全教室を開催している。交通ルールや自転車の乗り方について学習して、生徒の安全意識の向上を図っている。また、学期に1回自転車点検を行っている。 ・栄養教諭による食の指導を行い、食への関心を高めている。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時、通学路で出会う自転車通学の生徒の、一旦、降りてのあいさつ、大変気持ち良いです。 ・自転車通学はまだまだ、安全意識の高揚が必要。 ・幼小中で連携して食育、健康指導を推進していく。
		②食育・給食指導	望ましい食習慣を身につけ、健康な食生活を送るための指導が、家庭や地域と運動して意図的・計画的に行われている。	83.3	A				
	(3) 部活動	①適正な部活動の推進	部活動は人格の完成をめざすものであり、生徒の主体性のもと、計画的、協働的におこなわれている。勝利至上主義や生徒、保護者に過度な負担をしいないなど、適正な活動がおこなわれている。	83.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な活動ができる部活動運営をする。 ・生徒の安全を確保するため、全員顧問、複数顧問で対応する。 	◎	◎	
②健康・安全についての配慮		部活動における生徒の健康や安全について、リスクを最小限にとどめる配慮や指導が行われている。	87.5	A					